

気泡が出てきた 材料の水分が下地に吸収される時に、下地が含んでいた空気が押し上げられることで起きます。

- 原因** …… ● 空気を含んでいる下地に対するシーラー処理や水打ち処理が不十分な場合
● 追っかけ2度塗りの1回目の塗りのしごき塗りが不十分な場合
● 追っかけ2度塗りの2回目の上塗りのタイミングが遅すぎた場合

処理 …… 仕上げ後、気泡が出てきた場合は、仕上材に粘つきがなくなる状態まで乾燥が進んだときにプラスチックゴテで軽く押さえてください。プラスチックゴテが使えない仕上げ風合いの場合は、爪の面で軽く叩きながら気泡のふくらみを押さえてください。なお、大きな気泡の場合は、上記の処理を施しても穴が開いた状態となり、部分補修して目立つようであれば全面塗り替えが必要となります(全面塗り替え→27ページ参照)。

ササクレ

原因 …… 乾燥し始めているにもかかわらずコテでならしたときや、コテ押さえのタイミングが遅すぎた場合に起きやすくなります。

処理 …… ササクレが起きたときに、すぐ『霧吹き』で水分を軽く吹きかけてコテでならすと直る場合があります(濃い色の場合は色ムラが起きる可能性があります)。部分補修をしても目立つ場合は全面塗り替え(27ページ参照)

ボードジョイント部等のクラック(ヒビ割れ) ほとんどが下地の動きで起きます。

- 原因** …… ● 構造材に未乾燥木材を使用した新築家屋に施工した場合(木材の収縮や反り)
● 間柱のみ(胴縁なし)の壁下地に施工した場合
● GLボンドでプラスターボードや合板が貼られている壁に施工した場合
● ビス留めの間隔が広い場合や、くぎやタッカーで留めている下地に施工した場合
● 鋼製下地の壁に施工した場合(伸縮によるたわみや振動)
● 軟弱な地盤の上に建てられた家屋(不同沈下による建物のゆがみ)
● 脆弱な躯体の建物
● 下塗り後、壁が完全に乾いていない状態で仕上げ塗りをした場合
● ボードジョイント部の石こうが露出しているVカット部へのシーラー塗り忘れなど、クラックの原因にはいろいろありますので、クラック防止のためには、その原因を突き止めて根本的な対処が必要となります。

処理 …… 補修方法は27ページ

白華現象

壁材の中で発生した水酸化カルシウムが壁材表面に移行し、空気中の炭酸ガスと反応して炭酸カルシウムを生成して仕上げ面に付着する現象を「白華現象」と呼びます。全体的に色が抜け、白っぽくなります。

原因 …… 施工後、壁材の湿潤状態が長くつづいた場合に『白華現象』が起きる場合があります。

- 対策** …… ● 仕上げ塗り後、4～5日間は現場の空気を入れ換え、室内の高湿度状態を緩和してください。
● 厳寒期など低温環境下では施工した壁材の水分が蒸発しにくくなりますので、低温環境下での施工を避けていただくか、施工現場を全体的に暖めながら施工を行うと共に、朝夕には空気を入れ換えて多湿状況が続かないよう配慮してください。

処理 …… ● 全面塗り替え→27ページ参照)

色ムラ

以下のような場合に、色ムラの出方が多くなります。

- 原因** …… ① 施工から乾燥するまでの気象条件(気温、湿度、風、日照)によるもの
- 冬季の太平洋側の乾燥シーズン
 - 冬季の日本海側の多湿シーズン
- ② 主として工期的な条件やその他によるもの
- 工期短縮のため、ジェットヒーター等で強制乾燥した場合
 - 部分的に激しい通気乾燥があった場合
 - 下塗材<NGU>が均一に乾燥していない面へ施工した場合(Vカット部分が未乾燥の場合も含む)
 - 施工後、コテムラを取るため、部分的にコテを当てた場合
 - 壁面にコテやチリボウキで水を付着させた場合
 - 中途半端なタイミングでコテ押さえやコテ返しをした場合
 - 施工下地面に吸水量のばらつきがある場合
 - 施工後の換気が不十分で、壁の湿潤状態が長くつづいた場合

処理 …… 全面塗り替え(27ページ参照)

粉が手に付く 主に、硬化するために必要な水分が硬化前に奪われた場合に起きる現象です。
硬化不良現象 (ドライアウト)

- 原因** …… ● 仕上げ塗りの施工厚が薄すぎた場合
● 硬化前に凍結した場合
● ストープ等を使って急激に乾燥させた場合
● 材料の水練り不足や練り置き不足
(珪藻土と固化材がなじまない状態で施工したとき)

処理 …… 全面塗り替え (右ページ参照)

テカリ 仕上材の練り水が仕上げ面に浮いたまま乾燥した場合に起きる現象 (主に粉末タイプ仕上材で起きやすい)

- 原因** …… ● 練り水の量が多過ぎた場合
● 仕上げ塗りの際、コテ押さえのタイミングが早すぎて、練り水が表面に浮いたまま乾燥した場合
● コテに水を付けてコテ押さえをした場合
● メトロースや粉つのまを多く入れ過ぎた場合
● 施工現場の湿度が高く、施工した壁材の湿気が抜けにくい状況がつづいた場合に起きやすくなります。

処理 …… 全面塗り替え (右ページ参照)

壁材が付着した木部が黒変した 〈エコ・クィーン〉が強アルカリ性のため、木部に壁材が付着すると、木の種類によっては黒ずむことがあります。

- 原因** …… ● 施工時、チリボウキに水を付けてチリ周りを拭いた
(※木部だけでなく、水が壁面に付着しますと色変わりますので、チリボウキは使わないでください)
● 養生が不十分で、壁材が木部に付着した

処理 …… 希塩酸でアルカリを中和しますと、黒ずみは消えます。塩酸の入手が困難な場合は、木部洗い液の酸性タイプの液で黒変部分を処理してください。
(わからないときは専門業者に相談してください。)

※施工面以外の所は、材料が付着しないよう、養生テープやシート等で養生してください (無垢のフローリングにもご注意ください)。